

Institute for Language Education
Aichi University, Nagoya

Goken News

No. 18 December 2007



台湾 九份：

山の岩肌に貼りつくように造られた街。日本統治時代、金鉱で栄えた。繁華街の急坂には「越夜越美（夜になるほど美しい）」と書かれた赤い提灯が鈴なり。「千と千尋の神隠し」のモデルとなったと言われるほどの独特なたたずまいだ。

CONTENTS

- | | |
|--|-------------------------------------|
| ・ 蝙蝠はいつからめでたいものとなったのか？
（矢田 博士）.....2 | ・ ランニングホームラン
（田川 光照）.....15 |
| ・ ネッシーを探して（？）
—スコットランド・インヴァネス—
（北尾 泰幸）.....7 | ◆ 海外最新事情.....18 |
| ・ D.H. ロレンスの自然観：
短編小説『太陽』に関して
（山田 晶子）.....8 | ・ イギリス |
| ・ 語彙と聴解について
—その個人的アプローチ—
（服部 茂）.....10 | ・ 韓国 |
| ・ ボーンヴィル
—チョコレート工場のために作られた村
（安藤 聡）.....12 | ・ 英語 e-learning をバージョンアップ！.....22 |
| | ・ 2007年度外国語検定試験奨励金制度について
.....23 |

こうもり
蝙蝠はいつからめでたい
ものとなったのか？

経営学部
矢田 博士

一、はじめに

近頃ではあまり見かけられなくなってしまっ
たが、筆者が子どもの頃には、黄昏時になると
どこからともなく現れて、大空を自在に舞い飛ぶ
数多の蝙蝠の姿を、よく目にしたものだ。とり
わけ夕焼けの日には、空の茜色を背景にその姿が
くっきりと映し出され、それはそれは美しい光景
であった。

みなさんは蝙蝠に対してどのような印象をお持ち
であろうか。あるいは、闇夜に活動し中には動物
の生き血を吸う種類もいることから、吸血鬼ド
ラキュラを連想させる不気味な生き物と捉える人
もいるであろうし、あるいは、鳥でもなく獣でも
ないその異様な姿から、日和見的なずるがしこい
者の象徴として捉える人もいるであろう。いずれ
にしろ好い印象を抱いている人は、それほど多く
はないのではなかろうか。

二、中国の韻文作品における蝙蝠

*

ところで、中国の文学作品の中では、蝙蝠はど
のように描かれているのであろうか。その点を筆
者が研究対象としている韻文作品（詩賦）を中心
に概観してみたい。

中国の韻文作品で、蝙蝠を詠み込んだ最も早い
時期のものは、おそらく魏の曹植（一九二～二三
二）の「蝙蝠賦」であろう。以下、その全文を掲

げるが、早期の作品だけに四字分の欠落（□で示
す）がある。

吁何奸氣	あ いず よこしま 吁あ 何れの奸な気ぞ
生茲蝙蝠	こ 茲の蝙蝠を生ぜしむ
形殊性詭	こと たが 形は殊なり 性は詭い
每變常式	つね 毎に常式を変ず
行不由足	よ 行くには 足に由らず
飛不假翼	か 飛ぶには 翼を假りず
明伏暗動	明に伏し 暗に動く
□□□□	…… ……
盡似鼠形	尽く鼠の形に似
謂鳥不似	鳥といふも似ず
二足爲毛	二足にして毛たり
飛而含齒	飛びて齒を含む
巢不哺鷦	ひな はく 巢にては鷦を哺まず
空不乳子	あな やしな 空にては子を乳わす
不容毛羣	い 毛群に容れられず
斥逐羽族	せきちく 羽族に斥逐せらる
下不蹈陸	くだ ふ 下るも陸を踏まず
上不馮木	のぼ よ 上るも木に馮らず
〔韻字〕	蝠・式／足・翼・□／似・齒・子／ 族・木

《ああ、いったいいかなる邪な気が、この蝙
蝠という生き物を生み出したのだろうか。異
様な姿に奇異な性質、これまでの習わしを一
つ一つ変えてしまう。歩く時には（獣の）足
を使うでもなく、飛ぶ時には（鳥の）翼を借
りるでもない。明るいうちは潜み隠れ、暗闇
の中で動きまわる。……。姿はことごとく鼠
に似ており、鳥と名づけるには似ていない。
（鳥のように）二本足でありながら（四本足の）
獣のようであり、（鳥のように）空を飛ぶも
の、口の中には（獣のように）齒がはえて
いる。巢のなかでは（鳥のように）雛に口移
しで餌をやることもせず、穴のなかでは（獣
のように）子どもに乳を飲ませることもしな
い。獣の仲間にも受け入れられず、鳥の仲間
からも追いやられる。下においてても（獣のよ

うに) 地を歩くことはせず、飛びあがっても(鳥のように) 木に止まることはない。》

「賦」は韻文様式の一つで、賦に詠まれる事物について、それに関連する諸々の要素を敷き連ね、その事物のありようをつぶさに描き出すことを特徴とする。曹植の「蝙蝠賦」を例にとれば、蝙蝠の生態が、曹植の観察を通して、一つ一つ具体的に列挙されていることが確認できるであろう。曹植が列挙する蝙蝠の生態が科学的に正しいかどうかはともかくとして、ここでは曹植が鳥でもなければ獣でもない蝙蝠の異様な形状に着目し、それを邪な気が生み出したものと捉えていること、また鳥からも獣からも仲間はずれにされる嫌われ者としての側面を取り上げていることを、確認しておけばよいであろう。

ところで、曹植の「蝙蝠賦」を読んで、「尽く鼠の形に似、鳥と謂うも似ず」の箇所に至るごとに、子供の頃に読んだイソップ物語の中の「蝙蝠と鼯」の話の思い出す。そのあらすじは、以下の通りである。

《地面に落ちた蝙蝠が鳥嫌いの鼯に捕まってしまった。鼯が鳥だと思って食べようとする、蝙蝠は翼をたたんで鼠のふりをしたため、命拾いをした。しばらくしてまた地面に落ちた蝙蝠は、今度は鼠嫌いの鼯に捕まってしまった。すると今度は翼をひろげて鳥のふりをしたため、またまた命拾いをした。》

蝙蝠を鼠にも鳥にも似た生き物として捉えている点に、曹植の賦との発想の類似性が認められよう。ただし、曹植の賦が蝙蝠の存在を否定的に捉えているのに対して、この「蝙蝠と鼯」の話では、末尾に臨機応変に対処することの大切さを説く教訓が付されており、蝙蝠の機転を評価している点に、曹植の賦との差異が見られるようである。

またさらに、曹植の「蝙蝠賦」を読み進めて、「毛群に容れられず、羽族に斥逐せらる」の箇所に至るごとに、同じくイソップ物語の「蝙蝠と鳥と獣」

という話を思い出す。そのあらすじは以下の通りである。

《鳥と獣が戦争をした。蝙蝠は、鳥が優勢と見るや、鳥の味方をし、獣が優勢と見るや、獣の味方をした。やがて戦争が終わり、その行為が鳥と獣の知るところとなり、蝙蝠は鳥からも獣からもつまはじきにされることとなった。》

こちらの方は、蝙蝠を鳥からも獣からも仲間はずれにされる生き物として捉え、その存在を否定的に描いており、曹植の賦との類似性がよりはっきりと確認されるであろう。

＊ ＊

先秦から隋代までの詩賦作品の中で蝙蝠が登場するのは、前に掲げた曹植の「蝙蝠賦」を除けば、梁代の詩に一首見られるだけである。しかもそれは風景描写の一つの素材として描かれているにすぎず、蝙蝠そのものを主題としたものではない。唐代になると、蝙蝠を詠み込んだ詩が二十例と複数の例が確認されるが、そのほとんどは、やはり風景描写の一素材としてのものである。ただし、その中にわずかに二例ではあるが、蝙蝠そのものを主題とした詩が見られる。すなわち、元稹(七七九～八三一)の「有鳥二十章・其九」と白居易(七七〇～八四六)の「洞中蝙蝠」がそれである。では、元稹と白居易の詩には、どのように蝙蝠が詠まれているのだろうか。以下、順に確認してみよう。

有鳥二十章・其九	元稹
有鳥有鳥衆蝙蝠	鳥有り 鳥有り 衆 <small>あまた</small> の蝙蝠
長伴佳人占華屋	長に佳人に伴い 華屋を占む
妖鼠多年羽翮生	妖鼠 多年 羽翮 生じ
不辨雌雄無本族	雌雄を弁えず 本族も無し
穿墉伺隙善潛身	墉を穿ち隙を伺い 善く身を潜ましむ

晝伏宵飛惡明燭 昼には伏し 宵には飛び
 明燭を悪む
 大廈雖存柱石傾 大廈 存すと雖も 柱石
 傾く
 暗齧棟梁成蠹木 暗かに棟梁を齧み 木を
 蠹むを成す

〔詩形〕七言古詩／〔韻字〕蝠・屋・族・
 燭・木

《鳥がいる、鳥がいる、たくさんの蝙蝠が。いつも優れた御方にまわりつき、華麗な御殿に住み着いている。長い年月を生きぬいた妖しげな鼠に羽が生えたものが蝙蝠で、雌雄の区別も付かず、鳥の族でもなければ獣の族でもない。垣根の土壁に穴をあけ、隙を伺い上手に身を隠す。昼には隠れ棲み夜には舞い飛び、灯火の明かりを嫌う。大きな家屋は建っているものの、その屋台骨は傾いている。それは蝙蝠がひそかに棟木と梁とを齧り、木をぼろぼろにしてしまったからだ。》

元稹もまた、曹植と同様、蝙蝠の「本族も無し」といった側面に着目していること、また棟木と梁を齧って家屋を傾ける好ましからぬ存在として、蝙蝠を描いていることが、まずは確認されるであろう。さらに、「佳人」はここでは皇帝を、「雌雄の区別も付かない蝙蝠」は宦官を、それぞれ比喻していよう。宦官とは、皇帝の身の周りの世話をす去勢された男子で、しばしば皇帝に取り入っては権力を握り、国政を私物化しては亡国に導くことから、国政を与る士大夫(官僚)層にとっては、はなはだ嫌悪すべき存在であった。「長伴佳人」は、常に皇帝の側にまわりついている宦官の様子を表し、「宵飛」は、宦官が国政を裏から操っている様子を暗示していよう。元稹は、「大廈の棟梁を齧って柱石を傾ける蝙蝠」を詠むことによって、「国政を舞台裏から操り、国家の屋台骨を傾ける宦官」を批判しようとしたのである。

元稹の詩にも「妖鼠 多年 羽翮 生じ」とあるように、中国では古来、長い年月を生きた鼠が蝙蝠に姿を変えると考えられていたようである。例えば、『太平御覧』巻九一一「獸部二三・鼠」に引く鄭氏の『玄中記』には、

百歳之鼠、化爲蝙蝠。

〔百歳の鼠、化して蝙蝠と為る。〕

と言い、李白(七〇一～七六二)の「答族姪僧中孚贈玉泉仙人掌茶〔族姪の僧中孚の玉泉の仙人掌茶を贈らるるに答う〕」詩の序に引く『仙経』には、以下のように言う。

蝙蝠、一名仙鼠。千歳之後、體白如雪、棲則倒懸。

〔蝙蝠は、一に仙鼠と名づく。千歳の後、体の白きこと雪の如く、棲めば則ち倒まに懸かる。〕

李白の詩の序に見える「千年を生きた鼠が白い蝙蝠に姿を変える」という考えは、実は次に掲げる白居易の「洞中蝙蝠」詩にも踏まえられており、以下のように言う。

洞中蝙蝠	白居易
千年鼠化白蝙蝠	千年 鼠は 白き蝙蝠と化し
黑洞深藏避網羅	黑洞 深く蔵れて 網羅を避く
遠害全身誠得計	害を遠ざけ身を全うするに 誠に得計なるも
一生幽暗又如何	一生 幽暗 又た如何
〔詩形〕七言絶句／〔韻字〕羅・何	

《千年を生きた鼠は白い蝙蝠に姿を変え、真っ暗な洞窟の奥深くに隠れ棲み、捕獲網から身を避ける。害を遠ざけ身を全うするには、それは誠によい方法ではあるが、一生を暗闇の中で過ごして、いったいどうするのだろうか。》

曹植と元稹がその作品の中で、蝙蝠に対する不快感・嫌悪感をはっきりと表していたのに比べ、白居易の場合は、捕獲網から身を避けるため洞窟の奥深く隠れ棲む蝙蝠に対して、それは誠に「得計（よい方法）」だと、一定の理解を示している。しかし、全面的に同情しているかと言えば、決してそうではなく、むしろどちらかと言えばその一生を否定的に捉えていることは、結句の内容から見て明らかであろう。

宋代以降の作品については、『四部叢刊』の索引で調べた限りではあるが、南宋の范成大（一一二六～一一九三）に蝙蝠を主題とした詩が一例みられる程度で、その他の例は、おおむね蝙蝠を素材の一つとして描いているにすぎない。

蝙蝠	范成大
伏翼昏飛急	伏翼 ^{ふくよく} 昏 ^{くれ} に飛ぶこと急なり
營營定苦飢	營營として ^{きだ} 定めて飢えを ^く 苦とするならん
聚蚊充口腹	蚊を聚めて ^{あつ} 口腹を充たすも
生汝亦奚爲	汝を生かして ^{なんじ} 亦た奚 ^ま を ^{なに} をか ^な 為さんや

（〔詩形〕五言絶句／〔韻字〕飢・爲）

《^{こうもり}伏翼は夕暮れ時になるとせわしなく飛びまわる。きっと腹をすかせているのだろう、餌を求めて行ったり来たりとあわただしい。蚊を集めては口と腹を満たしているが、おまえを生かしていったいどうしようというのか。》

「伏翼」は蝙蝠の異名。蝙蝠は蚊を食べてくれるという点において、本来は益獣なのであるが、その不気味な姿からか、范成大もまた白居易と同様、いや白居易以上にその存在を否定的に捉えていることが、結句の内容から確認されるであろう。

以上、蝙蝠を主題として詠んだ詩賦作品を概観

した。そこで明らかになったことは、いずれの作品も蝙蝠を好意的には捉えていないということである。

なお、この点に関連して、唐代の撰者不明の『玉泉子』には、酒宴の席で父親からその容貌をからかわれ、客人の前で恥をかかされた息子が、父親にやりかえした言葉として、以下のような五言の二句が見える。

蝙蝠不自見	蝙蝠 ^{みづか} 自ら見ざるに
笑他梁上燕	他 ^か の梁上の燕を笑う

一蝙蝠は自分の醜い姿に気づかぬまま、
あの梁の上の燕を見て笑っている。一

この句は今日でも「自分のことを棚に上げて他人を嘲笑すること」の比喩として用いられるようであるが、この句もまた決して蝙蝠に対して好意的ではなく、それどころか蝙蝠に対する侮蔑の意がありありと感じられよう。

三、おわりに

以上の通り、中国の古典の詩賦作品においては、おおむねマイナスのイメージで捉えられていた蝙蝠であるが、実は今日の中国では、魚や鹿と同様、めでたい生き物として歓迎されている。それは「魚(yú)」が「余(yú)＝余裕」に、「鹿(lù)」が「禄(lù)＝俸禄」に、それぞれ音声面を通じるのと同様に、蝙蝠の「蝠(fú)」が幸福の「福(fú)」に通じるからだそうだ。

では、久しく嫌悪の対象とされてきた蝙蝠が、幸福の象徴として扱われるようになるのは、いったいいつ頃からなのだろうか。明代の陶磁器の中には、蝙蝠を吉祥文として描いたものがすでに見られることから、少なくとも明代まではさかのぼれるようである。しかし、それ以上の詳細については、筆者の力不足で未だ調査がそこまで及んでおらず、残念ながら明確なお答えができない。タイトルに「？」を付したゆえんである。ご存知の方は、ご一報いただければ幸いである。



[図版 1]



[図版 2]



[図版 3]

【注】

[図版 1]

五彩百蝠文壺 万曆（在銘）高さ35.1cm 東京国立博物館
 数知れない蝙蝠こうもりで覆われた大壺。蝠は音が「福」に通じ、吉祥文とされる。細かな単一の吉祥文を全面に描き込み、多くの色で塗り分けた賑やかな壺は、ほかに百鹿（音が「禄」に通じる）文の例がある（『中国の陶磁⑨明の五彩』矢島律子、平凡社、一九九六年、より）。

[図版 2]

粉彩桃樹文碗 雍正（在銘）径14.0cm パウアー・コレクション

器の外内面にかけて連続して文様が描かれる「過枝」と呼ばれる文様構成で、これも景德鎮粉彩独特の表現である。桃は「仙桃」・「寿桃」といわれ長寿の象徴、蝙蝠こうもりは福をあらわしている（『中国の陶磁⑩清の官窯』中沢富士雄、平凡社、一九九六年、より）。

[図版 3]

五福捧寿

五匹の蝙蝠が「寿」という漢字を捧げ持つかのように取り囲んでいる様子を図案化したもの。五匹の蝙蝠は五つの幸福を表している。五福については、『尚書』洪範に以下に言うのを踏まえる。

五福、一曰壽、二曰富、三曰康寧、四曰攸好德、五曰考終命。

〔五福とは、一に寿を^いい、二に富を^いい、三に康寧を^いい、四に好む^と攸は徳なるを^いい、五に終命^しを考すを^いう。〕

すなわち、「長生きすること」「財産に富むこと」「身体がじょうぶで無事なこと」「徳を好むこと」「自然の寿命を全うすること」を言う。なお、五匹の蝙蝠の間に「卍 (=万字)」の字があるのは、「福」と「寿」とが「万代」続くことを意味している (『中国吉祥図説』王慶豊・陳素・戚相成編著、遼寧大学出版社、一九九〇年、参照)。

ネッシーを探して (?) —スコットランド・ インヴァネス—

法学部
北尾 泰幸

8月下旬に、スコットランド・インヴァネス (Inverness) を旅した。「ハイランド」と呼ばれるスコットランド北部にあり、ロンドンから飛行機で約2時間掛かる。名古屋が北緯35度に位置するのに対し、インヴァネスは北緯57度に位置しているので、ずいぶん北のほうまで行ったことが分かるだろう。8月下旬の日本の気候からは想像できないと思うが、滞在中は長袖シャツにジャケットを羽織るほど涼しかった (しかし、半袖を着た現地の人が少ないのは驚いた…)。

インヴァネスの観光名所をいろいろ旅したが、今回は「ネス湖 (Loch Ness)」に絞ってレポートしたいと思う。「ネス湖」の名は皆さんも聞いたことがあるだろう。恐竜・首長竜に似た未確認動物「ネッシー (Nessie)」が目撃されたことで有名な湖である。未確認飛行物体 UFO 同様、ネッシーはいると固く信じている人もいれば、ネッ

シー物語は捏造であると主張している人もいる。果たして真相はどちらだろうか。ちなみに、ネッシーの最初の記録は、西暦565年キリスト教布教のために訪れた聖コロンバにまでさかのぼるようで、聖コロンバが村人を苦しめるこの怪物を神通力で追い払ったという記述があるそうだ。ネッシーはそれ以来、何度も目撃されているという話が残っている。

私は「怪物」という呼び名からネッシーはオスだと思っていたのだが、どうも現地ではメスと捉えているようで、ネッシーのことを歌った歌ではネッシーに対して代名詞 “she” を用いているし (但し、英語では船を指すのに代名詞 she を用いるため、湖に存在する動物に対して愛着を込め、“she” と呼びかけている可能性もある)、売られているネッシーのぬいぐるみも、メスであることを示すようにリボンなどのかわいい飾りが付けられている。

ネス湖は南北に約38km のびる細長い湖であ



る。一見すると、川のようなものである。しかし、れっきとした湖であり、その証拠に近くには更に細長い「ネス川 (River Ness)」がある。ネス湖を隅から隅まで味わうのにはクルーズ船のツアーに参加するのが一番だそうで、私もツアーに参加し、船でネス湖を旅した。「運よくネッシーに出会えるかも (笑)。」と思い、カメラ片手に風がビュービュー吹く甲板に出てネス湖を眺めることにする。船は、森に囲まれた湖をただひたすら走り続ける。周りは目を引くような建物はほとんどなく、船は自然あふれる森の合間を進み続ける。しかしこの「何もない」自然そのものの風景が、なぜか心を落ち着かせるのである。

自然を満喫するクルージングの旅を始めて1時間ほど過ぎたころ、船の先に何やら建物が見えてきた。「アーカート城 (Urquhart Castle)」である。写真を見てお分かりのように、ネス湖に浮かぶアーカート城は形容する言葉が見当たらないほど美しいのであるが、船が近づいていくと、城が少し変わった形をしているのに気づく。城が原形をとどめておらず、朽ち果てているのである。1230年に建てられたこのアーカート城は風化して朽ち果てたのではなく、1296年にエドワード1世率いるイングランド軍に包囲されて破壊されたとのこと。何となく物悲しい廃城が、なぜかネス湖の風景に素晴らしくマッチするのである。もしかしたら、この廃城と湖の風景がネッシー伝説に役買っているのかもしれない。

このアーカート城がツアーの終着点である。船から降りてアーカート城を散策した。石造りのこの城は大部分壊されているが、残った部分からアーカート城がいかに大きく頑丈な城だったかが分かる。保存状態が一番よい「グラント・タワー (Grant Tower)」に登り、高いところからネス湖を見てネッシーを探す。ネッシーは機嫌が悪かったのか、東洋からのお客に挨拶をしに出てきてくれなかった。

ネス湖畔だけではなく、インヴァネスの町全体が、都会の喧騒を忘れさせてくれる、のどかなところであった。ロンドンからは少し遠いが、イギ

リスに行くことがあれば、ぜひインヴァネスまで足を延ばして、雄大な自然を満喫していただきたい。インヴァネスでは美味しい料理にも出会うことができたが、それについては、またの機会にレポートしたいと思う。

D.H. ロレンスの自然観： 短編小説『太陽』に関して

経営学部
山田 晶子

ロレンス (D.H. Lawrence 1885-1930) の短編小説『太陽』(The Sun 1928) は、彼の後期の作品である。主人公はジュリエットという既婚の女性であり、大都会で強いストレスにさらされて、療養のためにイタリアへ行くことになった。そこで大自然に囲まれて癒されて心身を回復させていく物語であるが、この作品では、特に、太陽の象徴的な力が大きく関わっていて、太陽はあたかも男性であるかのごとく描写されている。

『世界シンボル大事典』によると、「太陽」は、① 肯定的な意味では光と熱と生命の源泉であるが、熱帯地方では乾燥を引き起こすので破壊の根源ともなる、とある。しかし、ロレンスの『太陽』という短編小説では肯定的な意味で使用されており、人間を蘇らせる命の源であり、神である。② 月との対比で考えると、太陽の「陽」に対し、月は太陽の光を反射して光るので、「陰」である。ゆえに太陽は「能動的原理」であり、月は「受動的原理」と言える。

③ 西洋では、太陽は「男性」の原理であるが、日本や南ヴェトナムの山岳民族では、太陽が「女性」であり月が「男性」と考えられている。ロレ

ンスの「太陽」では太陽は男性を表している。

次に、ロレンスの『太陽』における文体・主題の特徴を考えてみよう。

- ① 植物が非常にたくさん登場している。これらの植物には象徴的な意味を持っているものがある。
ブドウ、オリーブ（「平和」の意味）、レモン、オジギソウ、ウチワサボテン、イトスギ（「再生」の意味）、オレンジ、クロッカス、スイセン、アーモンド（「真理」、「宝」の意味）、アネモネ（「生命のはかなさ」、「豊かさ」と過剰」の意味）、ハス（「誕生と再生の永遠を保証する原型的な女陰」の意味）、「バラ色」から連想されるバラの花、イナゴマメ、カタバミ、スマイレ色から連想されるスマイレ、イチゴ、ユリ等。また、ジュリエットの子宮は、しばしば「ハスの花」に喩えられている。
- ② 動物がかなり登場している。特に注目すべきは「蛇」である。そしてイタリアで本来の自分に戻ったジュリエットと子供のジュリーは、動物に喩えられることが多い。動物とは、本能的な存在である。肯定的な比喩としては「蛇のようにサッと彼に飛びついた」、「わたしは、山猫と同じだった」という表現があり、「太陽に身をさらしたことがないミミズと同じ大人」、「墓場のうじ虫」、「貝殻のなかに隠れたカタツムリに似て、恐怖の小さなやわらかい核を持っていた」等が上げられる。
- ③ 都会に生きている男性（ジュリエットの夫のモーリス）とイタリアの農夫（ジュリエットが恋心を抱いた男）が対比されている。農夫が光の国の男性であるのに対比して、モーリスは「灰色」に包まれた男性として書かれている。
- ④ 太陽がジュリエットの恋人として描かれている。ゆえに生きている男性としての太陽の特徴が色の変化によって表され、太陽の個性が描かれている。通常の「赤い」太陽ではない。たとえば、「青い光をまとった太陽」、「どのような愛よりも温めてくれる太陽」が「自分のなかに入ってくるのを思い描いていた」、「太陽は、時には、赤みがかって、大きな、人見知りする動

物を思わせた」、「緊張した彼女の子宮は、今もまだ閉じたままだったが、太陽が神秘的に彼女を愛撫するにつれて、ゆっくりと、ゆっくりと開いてゆくのであった。」一方、最初の頃、ジュリエットの幼い子供の目に表われていた恐怖心は「太陽への恐怖心」と呼ばれ、今日の全ての男たちの目の中心にあると書かれている。

- ⑤ 旧約聖書に書かれている「エデンの園」という楽園神話に、部分的になぞらえられる物語である。

現代のニューヨークで機械的な生活、夫との戦いに疲れたジュリエットは精神を病んでおり、医者に「日に当たるとよい」と言われて、南イタリアへ療養に出かける。そこで太陽を浴びることによって彼女は本来の、裸の自分を取り戻す。太陽が「裸である」と書かれており、これが何を意味するかを考えると、それはジュリエットにも形だけの裸から、真の自分に戻るための裸を得るようにと促す太陽の姿であったことが分かる。彼女は、論理的に考えたり頭で物事を判断する現代人を離れて、ただ「女」として生きることになったのである。

「エデンの園」では、アダムとイブは裸のまままで恥ずかしいとは思っていなかった。しかし神に背いて罪びとになってから裸であることを恥ずかしいと考えるようになったのであった。ジュリエットの場合は、この逆で、ニューヨークでは服に束縛された「罪人」として生きていたのだが、イタリアへ来てから服を脱いだのであり、そのことを恥ずかしいと感じなかった。つまり彼女は一種の「楽園」へ入ったのである。ゆえにそこは花が咲き乱れており、蛇のような怖い動物もいるが彼女は怖がらなかった。人間と動物が対等に生きていたのがエデンの園だったのである。

そしてアダムとイブは蛇に誘惑されて知恵の木の実を食べて楽園を追われた。一方、ジュリエットは蛇を見かけたが、蛇は彼女を誘惑することなく姿を消す。

このように、『太陽』という短編は、エデン

の園の神話を逆に扱っていると言って良い。そして彼女もまた「楽園」を去らなければならない。それは彼女が現代に生きているゆえの宿命なのであり、ここに『太陽』のリアリズムがある。また、彼女は心を惹かれる農夫とは交わることはできない。当時は農夫の身分は、ジュリエットやモーリスの中産階級とは異なって身分が低い、と考えられていた。農夫の方から彼女に近づくことは常識的に考えられないし、彼女もまた身分階級に囚われている。それを破ることは犯罪に等しいと思われるのだ。21世紀の現代とは違い、ロレンスの生きていた時代においてはそうであった。

最終的にはモーリスとまた夫婦関係を持つとしても、ジュリエットは一時的にせよ、「太陽」を恋人として生き、その化身とも思われる農夫に出会ったことによって、心身がかなり再生したと思われる。

『太陽』という小説では、現代人は完全に「楽園」に帰ることは出来ないのである、という悲劇を呈示していると考えられる。そして聖書からの引用があり、聖書の枠組が感じられることや、イタリアが舞台になっておりギリシア・ローマ神話に登場する「ペルセウス」という人物が書かれていたりすることから分かるように、ロレンスの作品には、「太陽」に限らず、神話的な要素が非常に多く入っている。

ロレンスの神話の世界では、現代の男女が古代の自意識に縛られていない生き方を求めて悩みまどい、花、木、鳥、獣、月、太陽、風、星、大地、火などの自然界と関わることによって人生を模索する様が感動的に描かれているのである。そしてロレンスにとっては、人間が正常な状態を獲得する上で、このような大自然との交感が欠くべからざるものであったのである。

注：本原稿は、2007年度に筆者が担当した科目「英文小説購読」の春学期の講義ノートの一部に加筆したものである。

参照：ジャン・シュヴァリエ、アラン・ゲールブラン共著

金光仁三郎・熊沢一衛・小井戸光彦・白井泰隆他訳
『世界シンボル大事典』（大修館書店、1996）

語彙と聴解について —その個人的アプローチ—

名古屋語学教育研究室
服部 茂

『語研ニュース（第17号）』にて、精読のすすめとして読む学習法について述べた。今回は、その続編として語彙と聴解について述べてみたい。

どの言語学習においても語彙力は不可欠である。語彙力がなければ、聴けない、話せない、読めない、書けない。したがって、学習者にとって語彙力、つまり単語、熟語は最も大きな課題である。しかも、問題なのは、どう効率的に必要な語彙を必要数記憶するかである。その記憶法を工夫している人もいれば、記憶に苦手意識をもつ人もいるだろう。いずれにせよ、若い時期に語彙力を身につけなければ、その後の英語学習に大きく影響を及ぼすので遅くても、大学1、2年生までにはまとまった必要数の語彙力を身につけたい。

単語などの記憶法には個人差がありそれぞれ自分流のプロセスがあるので、一概にそれを提示することはできない。自分に合った方法を見つけることが先決である。だから、私一人の記憶法が学生諸君に合うかどうかかわからないが、私が行なった方法について反省（カッコ内で言及）を込めながら述べてみる。

私は高2の夏休みに、単語（約2000）、熟語（約1000）の単語帳を買いその夏中すべてその記憶に努めた。当時、英語は語彙力だと思い込みひたすら覚えまくった。そのやり方は、単・熟別で1

日100語ずつレポート用紙 (B5) に書き写し、動詞、形容詞、副詞といった派生語は後回しにして、単語帳の1番目の単語から代表的な意味を2つ3つ書き、日本語の意味をしおりで隠し、上から下まで単純に覚えていった (熟語も同じ)。レポート用紙も数十枚に達するとそれをファイルした。レポート用紙の右上に番号をつけ今日はナンバー5、明日は6といったように復習をして、覚えられない単語は赤で印をつけ、徐々に絞り込んでいった。時としてなかなか覚えられない単語は、無理に日本語で覚え、ごまかしたりして頭につめ込んだ (本当は良くない覚え方)。記憶する際、例文を読んだり、自分で発音してみることは一切なく、ただひたすら覚え込んでいった。数ヶ月もすると少し自信がついてきた。大学入試用の長文を読んでも知らない単語が少なく、以前と比べるとスムーズに読めるようになり、覚えた実感がわいた。さらに、長文で読んだ文からも知らない単語、熟語を拾い同じ要領でレポート用紙に書き写し、平行して記憶した。長文を読むことで単語を記憶する際の例文の役割を果たした (例文で単語の実際の使い方を理解することは大切)。発音に関しては、ほとんど度外視であったので、その後やり直し発音も正しく覚えることになった。これはやや時間を要した (本来は発音も同時に行なうのがベスト)。今から考えると決してスマートな覚え方ではなかった。紙に書いたり、間違った発音で覚えたりした (高校生の時は語彙力が全と思いついて、覚えることに終始していた)。良かった点があるとすれば、もしかしたら記憶力の筋肉は、この時に鍛えられたかもしれない。その後、知らない単語もすぐに覚えられるようになった。しかし、本当の意味で単語 (基本語) を身につけたのは、その後の文法や読解の学習を通してであった。単語の多用な意味や奥深さを感じた。英文を読むことにより、語彙の使い方を習熟していった。

もし、語彙力に自信がない人は、「短期集中」でやってみることをおすすめする。1日100個とノルマを決め覚えまくる。そうすると大体1ヶ月

もすれば目処がついてくる。とにかく、大量に記憶することに努めるのである。ここで肝心なことは、忘れることを恐れないことである。要は“たくさん覚えてたくさん忘れる”。忘れることを前提にやり、忘れたら何度でもくり返し復習することである。私は高2で行なったが、まだ大学生なら十分に覚えられるはず。単語、熟語を記憶することは退屈な作業ではあるが是非乗り越えてほしい。先に述べたが、あくまでもこれは、私個人 (それも、初期の学習者時代) のやり方であり、各自自分流のやり方があるのは言うまでもない。最近、もっとスマートに記憶できる単語帳や方法論、また科学的な研究に基づく記憶法もあるようなのでそちらを参照するのもいいと思う。身近な先生方に聞いてみるのも参考になるだろう。思わぬいい勉強法やエピソードが聞けるかもしれない。

次に聴解 (リスニング) について述べる。リスニングは英語の音をたくさん聴くことも大切であるが、やはり「音を知る」という観点からも重要である。文法を理解し、語彙も覚えなければならぬと同じ様に、音についても「知る」ということが大切である。音の性質や規則を確認して聴くことでも大きくその学習効果に違いが出てくる。例えば、英語と日本語のリズムの違いや、発話で強く発音される内容語 (名詞、指示代名詞、形容詞、疑問詞、一般動詞、副詞) と弱く発音される機能語 (冠詞、前置詞、人称代名詞、所有代名詞、関係代名詞、接続詞、助動詞) といわれる規則がある。また単語は、発音記号通り読まれない。隣り合う語と影響し合い変化する音、例えば連続されて発音される「音の連鎖」、一部の音が消える「音の脱落」、ある音が隣の音に変化する「音の同化」、語の一部が省略される「音の短縮」などといった規則を知ることが必要である。こういったことを、まとまった英文 (好きな英文でも可) を内容語と機能語に色分けして音読することでリズムを体感する上で有効な方法であろう。

リスニングを苦手としている人は、いっその事、急がば回れで、発音記号からやり直してみてもどうであろうか。正しい音を確認し、正確にその音

を覚えるのである。母音だけでも日本語より多く、その違いを知るだけでもリスニング力向上の第一歩となる。正しい発音、英語の音を知ると、上で述べた音の連鎖、脱落、同化など変化する音に対応できるようになる。ディクテーションをやる際、穴うめできた単語はその音を知っていたから聴けたのであり、音を知らなければ当然聴けないのである。

ある程度のリスニング力のある人は、リスニングを聴くことに限定して学習することに加え、「推測力」を向上させる学習法も聴く力を養う上で実際的であると思われる。

リスニングは一見、受動的な学習であるように思われる。しかし、工夫次第では実際のやり取りを想定した上で、より実践的な学習に転換できる。ここでは、ただ音を聴くという受動的な姿勢から、自ら音を取りにいく能動的な姿勢を養う聴き方を提案してみよう。それは、「聴く」から「推測」への学習。私たちは普段、日常会話をする際、相手とのやり取りの中で、かなりの部分で話しの流れを半ば推測しながら聴いており、だからこそそのとき、うなずいたり、同感したりして態度に示すことができる。そうした行為をリスニングの学習のときに役立ててみる。例えば、あるまとまった英文を聴いたとき、ほとんど理解できなかったとしよう。まず、英文の中で聴こえた英単語を拾い、その単語を基に推測してそのストーリーを予想してみる。例えば話された英文で“Christmas” “bargain” という単語を聴き取ったとき、どのようにイメージするだろうか。プラスかマイナスか、明るいのか暗いのか、喜んでいるか怒っているかなど。そういったイメージだけでもよい。“Christmas” と聴けばプラスのイメージが浮かぶであろうか。寒いと感じるかもしれない。あるいは雪が降っていると考えるかもしれない。“Bargain” と聴いてマイナスのイメージをもつ人は少ないであろう。多くはプラスのイメージで推測できよう。要は、一般的な常識をはたらかせて聴くことである。ここで強調したいことは、自ら単語をつかみにいくことにより、能動的に聴

く態度を養い、実際的なコミュニケーションの場を想定して聴く姿勢である。聴くことは能動的な行為なのでリスニング学習を聴く学習だけに留めず、「推測力」を高める学習として取り入れたい。

以上、私的な経験を含めた語彙力の記憶法とリスニングの学習法を紹介した。少しでも学生諸君の英語学習の参考になれば幸いである。最後に、私たちは、日頃から「コミュニケーション」と一言で言うてはいるが、このコミュニケーションの行為は公私の場面を問わず最も難しいのではないかと痛感する。公的な場合は勿論のことであるが、私的な場合にも語彙力の他に、教養、関心、興味、知識、ユーモア、人柄に加え、見解、見識も問われる。時として誤解される場合もありうる。言語運用力に影響を与える日常の行ないも大切にしなければと改めて思う。

ボーンヴィル —チョコレート工場 のために作られた村

経営学部
安藤 聡

バーミンガムの郊外にあるカドベリー社（慣用的表記では「キャドベリー」）の工場は世界でも有名なチョコレート工場のひとつである。童話作家ロアルド・ダールがダービーシャー州のレプトン・スクールに在学していた頃、寮には時々カドベリー工場から開発中の新製品の見本が送られてきて、生徒たちがそれを試食してアンケートに答えていたという。ダールはサンプルが送られてくるたびに、秘密の研究所のような新しいチョコレートの「開発室」とそこで働く自分の姿を空想していた、と自伝『少年』に書いている。このよ

うな経験がのちに名作『チャーリーとチョコレート工場』（邦題は『チョコレート工場の秘密』）を書く動因となったのだ。

カドベリー社は1824年創業で、当初はバーミンガムの街中にあり紅茶と珈琲の卸売りをしていた。創業者ジョン・カドベリーは敬虔なクエイカー（フレンド教会）の信者で、18世紀の終わり頃に絹商人として故郷のエクセターからこの地に移り、のちの1831年にチョコレートとココアの製造を試みる。1839年に次男ジョージが生まれたが、主にこの次男が長じて巨大なチョコレート工場とボーンヴィルの村を作り上げることになる。

当時のバーミンガムは急速な工業化、都市化が進んでいる最中だった。肥大化する街が生み出す膨大な富は一部の資産家にもみ独占され、労働者たちはまさにディケンズの小説に描かれているような貧困生活の中に放置されていた。少年時代のジョージ・カドベリーはバーミンガムの街でこのような労働者の惨状を目の当たりにして、彼らに清潔で安全で真っ当な仕事と住環境を与えたいと考えるようになったという。一方でその当時、バーミンガムの街の周囲には典型的なイングランド中部の美しい田園がまだ残っていた。19世紀末から20世紀初頭にかけてこの地で幼少年時代を過ごした J. R. R. トルキーンもまた、その頃見た田園風景に靈感を得て『ホビットの冒険』や『指輪物語』の世界を描いている。カドベリーは理想的な職住環境を創造するのにこの田園を活用できないかと

考えた。

1861年に父親から事業を引き継いだジョージと兄リチャードは、1872年に食品製造時の混合物に法的規制が加えられたのを機にココアの改良に着手し、純粹素材のみを用いたココアを製造して販売した。こうして親子二代で完成させたカドベリー印のココアとチョコレートは好評を博し、そこから得た資金でカドベリー兄弟はバーミンガム南郊に14.5エーカー（約58600m²）の土地を購入し、そこに大規模な工場と従業員のための住宅地を建造することにした。ここは運河と鉄道が近くを通っていることから交通の便もよく、仕事と生活のいずれの場としても理想的だった。1879年1月に建設を開始し、工場はその年の内に完成した。近くをボーン川が流れていたため、その 'Bourn' に「町」を意味するフランス語 'ville' を付けてこの土地を「ボーンヴィル」と命名した。

当初はこのボーンヴィル村の住宅地には役職者のための18棟のみが建てられたが、20世紀初頭までにボーンヴィルはひとつの村、あるいは小さな町と言うべき規模にまで発展した。家屋の建蔽率を25%以下と定め、住民たちが広い庭でガーデニングや野菜栽培を楽しめるようにしたばかりでなく、家屋を舗道から少なくとも20フィート（約6m）、また向かいの家から少なくとも82フィート（25m）離すようにした。建ち並ぶ家並みは敢えて統一感を出さず、多様なデザインの家を不規則に配置している。このことによって風景に変化と対照がもたらされ、周囲の田園とも自然に調和するようになった。敷地内にあった古い樹木はなるべく残し、道路沿いには新たに植樹した。また1327年に建てられたハーフトインバー様式の「セリー・マーナー」を近隣から敷地内に移築し、古き良き時代のイングランドの村の雰囲気醸し出すことに成功している。商店街もこの様式を模した造りになっている。ボーンヴィルの住宅は当初、999年の借地権つきで分譲されたが、あまりに好評だったため価格を吊り上げて転売する者が続出したので、ほどなくカドベリーは方針を転換し、普通の賃貸住宅とした。これらの住宅にはカドベ



カドベリー・ワールド



カドベリー・ワールドの入口とボーンヴィルの教会

リー社の従業員でなくとも入居できるようになっている。1914年の時点で、全住民の中に従業員が占める割合は41%だったという。1905年に最初の学校が完成した後、村には複数の学校が設立され、また1925年からは若い従業員のための成人教育も行われている。

兄リチャードは1899年にエジプトを旅行中、エルサレムでジフテリアを患ってそのまま帰らぬ人となった。だがその後も弟ジョージは若い建築家 W. A. ハーヴィーと組んでボーンヴィルを発展させ続ける。村の中央に緑地 (village green) を作り、その中心に集会所 (現在では観光案内所を兼ねている) として中世の毛糸市場を模した小さな建物を配置した。住宅地と商店街、そして緑地が出来上がっても、教会とパブがなければイングランドの村、あるいは町として完全とは言えない。カドベリーは緑地の一面にクエイカーの礼拝所を、また商店街を挟んだ向こう側にイングランド国教会 (アングリカン) の教会を建てた。後者は1912年に基本的な部分が出来上がり、カドベリーの死後3年を経た1925年に全体が完成した。イタリアのロマネスク様式を模した赤茶色の煉瓦の教会は、他のアングリカンの教会とはいささか趣が異なっている。一方のパブは宗教上の理由で (何しろクエイカーなので) 設置することができないゆえ、この意味ではボーンヴィルはイングランドの村として永遠に完成しないということになる。

1900年に村の管理運営と開発を行うためのボー

ンヴィル・ヴィレッジ・トラストが発足した。現在では1000エーカー (約4 km²) の土地に7500世帯、25000人が住むこの村を一括して管理しているばかりでなく、このトラストはバーミンガムの街の南に隣接するウースターシャー州に11の農場を所有し、その総面積は3000エーカーに及ぶ。また2005年には、街の北側のシュロップシャー州テルフォードに、第二のボーンヴィルとも言うべき新しい住宅地が完成した。

1902年にカドベリーはボーンヴィルの住民の生活水準の実態を明らかにするために、この村に住む6歳から12歳までの少年少女の身長と体重と、バーミンガム市街地の特定の地区 (フラッドゲイト・ストリート) の同年齢の少年少女の身長体重を調査した。その結果は、ボーンヴィルの少年の体重が平均で71.8ポンド (約31.3kg) であるのに対してフラッドゲイト・ストリートの少年のそれが63.2lb (約27.5kg)、同じくボーンヴィルの少女の平均が74.7lb (約32.5kg) に対してフラッドゲイト・ストリートの少女が65.7lb (約28.6kg) だったという。現在のように肥満が国民的な問題になるような時代ではなかったゆえ、体重がより重いということはそれだけ栄養摂取状態がよく、健康な状態であると考えてよい。身長についても、ボーンヴィルの少年少女の平均の方がフラッドゲイト・ストリートのそれよりも2~3インチ (5.1cm~7.6cm) 高かった。尤も、フラッドゲイト・ストリートというのはその当時、バーミンガムの労働者が住むスラムの中でも特に貧しい地区だったらしいので、このデータの解釈には慎重になる必要があるのかも知れない。だが、1914年から19年までの住民の死亡率を比較した場合にも、ボーンヴィルが人口1000人に対して7.7人だった一方で、バーミンガム全体では1000人当たり13.7人だったという。労働者に理想的な住環境を与えるというカドベリーの当初の目的は成功しているのである。

ボーンヴィルのカドベリー工場には現在、「カドベリー・ワールド」という博物館あるいは遊園地のようなものが併設されている。私はこの中に

入ったことはないのだが、ここのサイトの説明と、ここに行った人のブログなど（例えば「中田英寿オフィシャルホームページ」の2006年3月9日の日記）を読んだ限り、おおよそ次のような内容だ。まずチケットを購入するとチョコレートバーがもらえて、それを齧りながら（1）カカオ豆の歴史、（2）カカオ豆がヨーロッパに伝来した経緯、（3）カドベリー社史、についての展示を見たのちに実際に工場でチョコレートが作られているところを見学し、試食コーナーや記念撮影コーナーを経て過去半世紀にわたるカドベリーのテレビCMが見られるシネマに至る、ということらしい。ちなみに入場料は2007年12月現在で大人13ポンド、学生・老人10ポンド（本稿執筆時の換算値で約2350円）、子供9ポンド95ペンスである。東京ディズニーランドなどと比べれば確かに安い、単なる工場見学だと思えばかなり高い。年間パスポートもあり、これは大人33ポンド80ペンス（学割はないらしい）だから、三回（学生は四回）行けば元が取れる。またここにはカドベリー製品を特価販売する店舗やカフェなどもあり、ここまではチケットを買わなくても入ることが出来る。

カドベリーの製品と言えは1905年から製造・販売され続けている定番中の定番である「デアリー・ミルク」という板チョコが有名だが、これに干し葡萄とアーモンドが入った「フルーツ&ナッツ」の方を私はより好む。ダールの『少年』に記されているレプトン・スクール時代のエピソードに次のようなものがある。奇人の数学教師コーカーズ先生は「数学ほど退屈なものはない」と嘯いて、いつも授業中にクロスワードやゲームばかり教えていた。この先生はある日、一枚のティッシュペーパーを取り出して見せ、これを50回折りたたんだら厚さはどれくらいになるか、と問いかけた。生徒らは当てずっぽうに24インチ、5ヤードなどと答えたが、正解者は皆無だった。正解は「地球から月までの距離」とのことで、先生は珍しく黒板に数式を書いてそのことを証明したという。この時、正解者がもらえるはずだった賞品は、カドベリーのフルーツ&ナッツの巨大板チョコだった

らしい。

2007年夏のイギリスセミナーで、確かロンドンに到着して3日目だったと思うが、何人かの学生と駅前のスーパーに行ったときのこと、私は例によってフルーツ&ナッツを買おうとしていた。そのとき傍らには二人の女子学生がいたのだが、一人がデアリー・ミルクを買うべきかどうか逡巡していた。するともう一人が、「この会社のは全部おいしいから大丈夫」と断言した。英国に来て正味二日のうちに、すでに彼女は何種類かのカドベリー製品を食べていて、しかもそのすべてが美味だったということらしい。ちなみにこの時点で私はまだ彼女らに、カドベリー社をめぐる蘊蓄を一切語っていなかった。

ランニングホームラン

経営学部

田川 光照

今年の大リーグ・オールスター戦（7月11日）でのイチローの活躍はすごかったですね。なにしろ、3打数3安打、しかもその1本が78年の歴史をもつ大リーグの球宴で初めてのランニングホームラン、おまけに MVP まで取ってしまったのですから。

ところで、この「ランニングホームラン(running home run)」が和製英語だということを、皆さん、ご存知でしたか？ 恥ずかしながら、筆者は知りませんでした。オールスター戦の中継を見ていませんでしたので、結果を知るために、<http://sportsillustrated.cnn.com/> にアクセスしたところ、次のように書かれていたのです。

Ichiro had three hits, including the All-Star game's first inside-the-park home run.

(イチローが、オールスター戦初の inside-the-park home run を含む3本のヒットを放った：注1)

なんなんだ、“inside-the-park home run”で？と思ったわけです。アメリカの球場名には“field”（シアトル・マリナーズの本拠地は“Safco Field”）、“studium”（ニューヨーク・ヤンキーズの本拠地は“Yankee Studium”）、“park”（サンフランシスコ・ジャイアンツの本拠地は“AT & T Park”）などが用いられているので、“park”に「球場」の意味があることは知っていました。そこで、“inside-the-park home run”を直訳すると「球場内ホームラン」となります。仮に“outside-the-park home run”という表現があったとすれば、「球場外ホームラン」すなわち「場外ホームラン」ということになるのではないか。すると、「球場内ホームラン」は場外ホームランではない客席へのホームランを意味するのか？それじゃ、当たり前のホームランで球宴初のホームランというのは変だ。そう考えたわけです（あとで調べて分かったことですが、「場外ホームラン」は“out-of-the-park home run”と言うようです）。

結局は辞書で調べてみることにしました。そしてようやく、“inside-the-park home run”とは「ランニングホームラン」のことだと分かったのです。野球用語のカタカナ語は「デッドボール」「ナイター」「チェンジ」など、和製英語の宝庫ですが、「ランニングホームラン」もその一つだったのですね。上の推測の過程で、もう少し想像力を働かすべきだったのです。というのは、“park”を「球場」の意味で理解したところまではよいのですが、客席まで含めたイメージ（これが、少なくとも「球場」という日本語のイメージではないでしょうか）に捕らわれていたからです。“inside-the-park home run”の“park”は客席を含まず、野球をするフィールドのことかもしれないと考えればよ

かったでしょう（調べていませんが、もしかすると、大リーグの初期には外野の外に客席がなかったのかもしれませんが）。

あるいは、そうではなく、次のように考えるべきだったのかもしれませんが。それは“inside”には「内部」だけではなく「内側」の意味もあるということです。たとえば、車線や通路の「内側（“inside”）」と「外側（“outside”）」とか、ピッチャーがストライクゾーンの「内側（“inside”）」を突くとか「外側（“outside”）」を突くとか言うときの「内側」です。このような意味での「内側（“inside”）」と「外側（“outside”）」を球場に適用すれば、野球をするフィールドが「内側（“inside”）」であり、客席が「外側（“outside”）」であるということになるでしょう。そうであるなら、上で、仮に“outside-the-park home run”という表現があったとすれば、「場外ホームラン」の意味になるはずだと書きましたが、そうではなく客席へのホームランということになるでしょう。実際、「場外ホームラン」は“out-of-the-park home run”と言うのですから、そのように考えるのが正しかったのかもしれませんが。

ともかく、「ランニングホームラン」が和製英語であることを初めて知ったのですが、そのときにふと思ったのは、じゃ、韓国でもこの和製英語を使っているのだろうか、ということでした。というのは、韓国の野球用語はもっぱら日本語から入っているからです。そもそも「野球」という“baseball”の日本語訳そのものが、そのまま韓国語になっています（ただし、韓国語読みで야구〈ヤグ〉）。また、内野手는내야수〈ネーヤス〉、外野手는외야수〈ウェヤス〉、投手는투수〈トウス〉、好投は호투〈ホートゥ〉、安打는안타〈アンタ〉満塁は만루〈マルル〉など、すべて日本語の韓国語読みです。

「ランニングホームラン」もそのまま韓国語に入っているとすれば、「러닝 홈런〈ロニングホームロン：注2〉」となるはずですが。実際には、どうでしょうか。次の文は、球宴の翌日7月12日の朝に、韓国のMBCテレビが放送したニュー

スのスクリプトの一部です (<http://www.imbc.com/>)。人名、外来語、それに漢字語にはカッコ内にカタカナと漢字を示しておきます。漢字語のうち野球用語で日本語の場合と一致するものは、日本語から入ったものとみなして差し支えありません。

5회 (回) 초 (初) 이치로 (イチロー) 가 등장 (登場) 했는데 잡아당긴 타구 (打球) 가 담장을 맞았거든요. 공이 틈새에 맞고 굴절 (屈折) 되면서 우익수 (右翼手) 그리피 (グリピー) 가 제때 처리 (処理) 를 못한 사이에 말빠른 이치로 (イチロー) 가 홈 (ホーム) 까지 들어오면서 역전 (逆転) 그라운드 (グラウンド) 홈런 (ホームロン) 을 만들었습니다.

(5回表、イチローが登場しましたが、引張った打球がフェンスに当たったんですよ。ボールがすき間に当たって方向が変わり、右翼手グリピーが処理にもたつく間に、足の速いイチローがホームまで入ってきて逆転グラウンドホームランをやったのけました)

韓国語では、「ランニングホームラン」ではなく「グラウンドホームラン」という韓製英語が使われていたのです。ただし、「ランニングホームラン」という言い方もされており、一般的にはこちらのほうが通用しているのかもしれませんが。というのは、たとえば、“empas 지식 (知識)” というサイト (<http://kdaq.empas.com/>) で、그라운드 홈런 (グラウンドホームラン) とは何かという質問に, 러닝홈런 (ランニングホームラン) を使って次のように回答されているからです。

그라운드홈런은 러닝홈런으로 그라운드 내에서 이루어진 홈런을 말하는 것입니다.

(グラウンドホームランは、ランニングホームランで、グラウンド内で達成されたホームランを言うのです)

また、「장내 홈런 (場内ホームラン)」という

言い方も、やはりイチローの「ランニングホームラン」を伝えるニュース記事で見かけました。これはまさに“inside-the-park home run”の直訳でしょう。しかし、「ランニングホームラン」や「グラウンドホームラン」よりも分かりにくいと思います。筆者が理解できなかった“inside-the-park home run”と同じことですから。

いずれにせよ、野球関係の和製英語は、「デッドボール」(英語では hit by pitch) = 「데드볼」、 「ホームイン」(英語では run in/come home) = 「홈인」、 「ナイスボール」(英語では good pitch) = 「나이스볼」、 「ナイター」(英語では night game) = 「나이트 <ナイト>」など、ほとんどが韓国でも使われているようです。ただし、「ゴロ」を「땅볼 <タンボール>」(「땅 <タン>」は「地面」を意味する韓国語の固有語:注3) と言うように、独自のものもあるようです。いろいろ調べてみるとおもしろいかもしれません。

(注1) 「イチローが3本のヒットを放った」は“Ichiro had three hits”という簡単な表現でよいですね。これは参考になるかも。

(注2) 韓国語では、run や cover などに含まれる「ア」の音は「[ㅏ(オ)]」、car などに含まれる「ア」の音は「[ㅑ(ア)]」、thank などに含まれる「ア」の音は「[ㅓ(エ)]」となります。ちなみに、Thank you は「뽕큐 <テンキュ>」と言います。余談ですが、あるユーモア小説に「뽕큐베리감사 <テンキュベリーカムサ>」というセリフが出てきました。これは Thank you very much. の“much”を「감사합니다. <カムサハムニダ>:ありがとうございます」の「감사 <カムサ>:感謝」で置き換えたもので、日本語にすれば、「サンキュー・ベリーありがとう」となります。

(注3) ついでですが、「ピーナッツ」のことを韓国語で「땅콩 <タンコン>」と言います。「콩 <コン>」は「豆」のことで(ちなみに「もやし」は「콩나물 <コンナムル>」)、落花生は地中でできる豆であることからきているのでしょう。

海外最新事情

イギリス

(1) 英国人は絶滅危惧種に指定されるのか?

英国の都市部の小学校でここ数年の間に、英国人の児童の割合が目に見えて下降しているという。ここで言う「英国人」とは、アングロ=サクソン人でもケルト人でもいいが、とにかく数百年来ブリテン島に居住している白人のことである。20世紀後半以降特に英国は多民族・多文化国家であったが、近年都市部においてよりいっそうその傾向が進み、「英国人」の方が「少数民族」になっている地域もあるのだ。二度の世界大戦における英国の人的被害は大変なものだったので、労働人口を確保するために英国は移民を積極的に受け入れた。特に旧植民地である東西インドや西アフリカの諸国から特定の職種（ロンドンのバスの乗務員とか）に集団就職が斡旋されたこともあり、ロンドンをはじめとする大都市に特に「外国人」が多くなっている。とはいえ彼らも英国籍を持つ英国人に違いないので、ここでは昔から英国にいる白人を「英国人」、その他の英国籍を持つ人々を「移民」と、カギカッコをつけて標記する。

ロンドン東部タワー・ハムレッツの小学校では、「英国人」の児童が全体の15パーセントで、最大多数を占めるのは65%のバングラディシュからの「移民」の子供たちだという。北西部のプレントでは「英国人」が7%、36パーセントがアジア人の、24%が黒人の「移民」である。だが西部のプロムリーでは79%が「英国人」であり、地域によって極端にその割合に違いがある。ロンドン以外ではマンチェスターとブラックバーンで「英国人」の割合が60%以下、ブラッドフォードで53%（ここはパキスタンからの「移民」が多い街として有名

だ）、バーミンガムで43%、レスターで41%である。だがイングランド南西部のデヴォン州ではこの割合が95%になる。リヴァプールを含む北東部も「英国人」の割合が高い地域で、例えばセフトンでは小学校で96.3%、中学高校で96.7%を占める。リヴァプールとその周辺も移民が多い地域だが、そのほとんどはアイルランドから渡ってきた人たちの子孫なので、彼らは「英国人」に含まれるのである。（以上の数値は2007年9月28日の『タイムズ』による。）

そういうわけで、かつては移民の受け入れに積極的だった英国政府も、英国の主要都市において「英国人」がマイノリティになりつつあることに対して危機感を抱いたらしく、2005年から英国籍取得のための筆記試験を導入し、国籍取得希望者全員に義務として課すことにした。これは全24問からなる、英国の地理、歴史、政治、文化などに関する設問に解答する（主に四択式）試験で、合格最低ラインは18問正解ということだ。毎年およそ10万人が受験し、その約3分の2が合格している。ということは、単純に考えても年間6、7万人は「移民」が増加しているということだ。

9月29日の『タイムズ』によると、ロンドン北部のパブで余興として、主に若年層の専門職階級の「英国人」100名がこの試験に挑戦し、全員が「不合格」という結果に終わったという。この24問は過去問の中でも特に難しいものが選ばれていて、しかもビター（英国のビール）などを飲んだ状態で回答しているのだから、という回答者からの「負け惜しみ」のようなコメントが掲載されていたが、一方で主催者側のパブ店主も「試験の内容と現実の英国での生活に重大な乖離がある」と述べている。ここで出題された問いをいくつか見てみよう。Q：北アイルランド議会の議席数

は？ A：108／125／64／82（正解：108）、Q：英国王が結婚できないのは？ A：王族の血縁者でない者／プロテスタントでない者／25歳以下の者／英国外で生まれた者（正解：プロテスタントでない者）、Q：両親のいずれかが本当の親でない子供の割合は？ A：10％／25％／40％／55％（正解：40％）、Q：平均時給で女性は男性よりどれだけ低い？ A：5％／10％／20％／同じ（正解：20％）。単純な正誤問題もある。Q：公共の場所ですべての犬は飼い主の住所・氏名が記された首輪を着用しなければならない。（正解：正）。

確かにややこしい問題が多い。だが、「移民」たちはこれに正解して英国籍を得ているのだ。ということは、「移民」の方が「英国人」よりも英国をよく知っている、という逆転現象が起きているということもあり得る。このままでは数の上でも中身についても「英国人」は絶滅の危機に瀕することになるかもしれない。

さて、私もこの24問に回答してみた。結果は11問正解だった。もちろん不合格だが、これを英国文化の研究者として恥ずかしい結果と考えるべきか、移住の予定がない外国人にしては上出来と考えるべきか、実は自分でもよくわからない。

(2) 学校給食改善運動

一般的に言って、英国料理は世界中で評判が悪い。英国には美味な食べ物が存在しない、などと断言して憚らない無知蒙昧な人々の戯言に対して私は決して聞く耳を持たないが、一方で英国には途轍もなく不味い食べ物が存在することも事実である。また英国には味や栄養素に無関心な人々がいるということもまた事実である。

英国の学校給食は多くの場合自由選択である。給食を食べるか弁当を持って行くか、あるいは家に帰って昼食を済ませて再度登校するかは、各々の児童生徒やその親が自由に決められる。また給食を食べるにしても、ヴァイキング式に自分の食べたいものを食べたいだけ選ぶことができる。だがそうになると、子供に選ばせれば当然、また栄養

素に無関心な親に育てられた子供は特に、例えばチップス(揚げたジャガイモ)とチョコレートケーキと炭酸飲料、などというしょうもない組み合わせで昼食を済ませてしまうことにもなる。このような現状を憂慮して、二年ほど前から政府は給食改善キャンペーンを始め、炭酸飲料やハンバーガーが禁止になり、チップスが制限され、また炭酸飲料やジャンクフードの自販機を学校内から撤去する動きもあるという。(2007年10月3日付『インディペンデント』)

アイドル料理人のジェイミー・オリヴァーがこれに賛同して各地の学校を視察し、調理師たちに自分が考案した料理を教え、その様子を『ジェイミーの学校給食』(Jamie's School Dinners) というTV番組で伝えている。だが皮肉なことに、7月9日付の『タイムズ』によると、このプロジェクトが始まってから給食を利用する児童・生徒が20%も減少し、現在では10人中4人程度になっているという。このことは日本でも、10月17日付の『朝日新聞』朝刊で報道されている。ジェイミー君の指導の下に政府が作成した新基準が導入されて以来、調査対象となった27の学校のうち19校で給食利用者の著しい減少が見られた。英国の多くの子供たちにとっては、この人気シェフのプロデュースによる手の込んだ栄養価の高い給食よりも、慣れ親しんだ栄養価の低いジャンクな給食の方がいいということなのである。また彼のレシピは困ったことに現場の調理師たちからも不評を買っている。それまでは業務用冷凍食品を温める程度で済んでいた彼ら彼女らの仕事がこの若き達人のお蔭で複雑化し、彼ら彼女らの能力技能をはるかに超えたレベルの料理法が要求されているらしい。(とは言えそれほど特別に高度な技が要求されているわけではないのだが。) それに加えて、従来の学校給食は一食あたり約37ペンス(100円を大きく下回る)という低コストで運営されていたが、彼のメニューを実現するには「莫大な」予算が必要になるという問題もある。番組の中でオリヴァー氏は、調理師を一堂に集めて講義を行ったり、彼ら彼女らの待遇改善のために役所を訪れたり、教

育担当大臣を自分のレストランに招いて政府からの支援を増やすよう嘆願したりしている。

ジェイミー・オリヴァーは1975年エセックス州のクレイヴァーリング出身で、11歳の頃から両親が経営するパブの厨房を手伝っていて料理に興味を持ったという。ウェストミンスター料理学校卒業後フランスで修行し、TV番組『裸のシェフ』(The Naked Chef)以来数多くの番組と著作で人気を博すと同時に、英国各地や海外にレストランを開いている。彼の番組の多くは日本語字幕入りのDVDで入手が可能である。彼の英語は早口な河口英語(『語研ニュース』第11号参照)のためやや聞き取りづらいが、彼は世界各地の料理や食文化をよく勉強しているし、料理や食べることに関して独自の哲学を持っているので大変面白い。彼はまた、デイヴィッド・ベッカムの友人でもあるらしい。

(3) スズメとムクドリのための庭

英国はバードウォッチング発祥の地でもある。この国は産業革命がもたらした工業化、都市化、あるいはさらに遡って中世・ルネサンス時代の大規模な森林伐採によって早い時期に自然を破壊してしまったので、自然環境や野生の生物に対する関心が目覚めるのも早かった、ということなのである。その英国で近年、スズメやムクドリなどの野鳥が急速に減少しているという。2007年10月25日の『タイムズ』によると、過去35年でスズメが64%、ムクドリが72%、ウタツグミが50%減っている。その原因のひとつは餌となる昆虫が減少したことだとされている。

王立鳥類保護協会(The Royal Society for the Protection of Birds: 略称RSPB)は10月20日にこれらの野鳥を保護するためのプロジェクトを発足させ、野鳥にとって居心地のいい庭を作るよう、国民に呼びかけている。RSPBが提唱するのは庭の「生命体の多様性」(biodiversity)を保持して、鳥の餌となり得る昆虫の種類と数を確保することである。具体的な提案として、(1)芝生を刈ら

ずに放置する一画をつくり、昆虫の棲家とする、(2)剪定して切り落とした枝を木の根元に積み上げ、コケやシダなどを育てる、(3)樹液や蜜が豊富な植物を植える。例えばヤグルマギク、ヒマワリ、フクロウソウなど、(4)外国産ではなく国産の植物を植える。それによって国内に棲息する昆虫が引き付けられる、(5)庭の縁の距離を稼ぐため、花壇の輪郭を曲線にする、(6)納屋の壁に蔦を這わせる、といったことである。だがよく考えてみれば、ここで提唱されていることは伝統的な英国式庭園のコンセプトの再確認に他ならない。花壇の輪郭を人工的な直線とせず自然な曲線にするのは基本中の基本であるし、国産の植物を植えよというのは19世紀にすでにウィリアム・モリスやウィリアム・ロビンソンが言っているし、草を刈らない一画を作れというのもフランシス・ベイコンの庭園論にすでに似たようなことが書かれている。

RSPBはまた、庭を持たない都市生活者にも呼びかけている。ベランダに鉢植えを置くだけでも、昆虫を集めてそれによって鳥を呼ぶことが出来るのである。(安藤 聡)

韓 国

どうなる、韓国ドラマ

本年(2007年)9月7日付け「朝鮮日報」に、「跳ね上がる制作費—輸出はがた減り—韓国ドラマ“寒流”」と題した記事が掲載された。その記事を要約すると次のごとくである。

韓流を引っ張り東アジアを席卷してきた韓国のドラマ産業が危機の徴候を見せはじめた。すなわち、スター作家や俳優のギャラが跳ね上がる一方で、輸出額が減っているばかりか、国内の視聴率も落ちている。

韓国ドラマ制作社協会が、記者会見で「現在の制作条件では、韓国ドラマ産業が衰退するほかない」と発表した。というのは、「地上波放送局では制作会社側に実制作費の40~60%程度だけを支

給しているが、俳優と作家のギャラが天井知らずに跳ね上がって」おり、「制作単価が高くなり、輸出もうまくいかず、実験的な作品もこれ以上出なくなっている」からである。

最近の特 A 級の俳優、作家のギャラは、1 回あたり 3000 万ウォン（日本円にして 400 万円弱）を上回っている。このために、4～5 年前までは平均 9000 万ウォン（1200 万円弱）であったドラマ 1 回あたりの平均制作費が、今では 1 億 5000 万ウォン（2000 万円弱）まで上昇した。その結果、「視聴率が 30% を越えたドラマさえも赤字になった」という制作会社もある。また制作会社は、「地上波放送局が優越的地位を利用して、大部分のドラマ版權を持っている」ことを問題視したり、「3 年前に比べて作家、俳優のギャラが 2 倍以上も上がったのに放送局が制作会社に支給する金額は変わっていない」ことを問題視している。

ドラマの輸出額について見れば、2005 年に 1 億 162 万ドルまで跳ね上がった輸出額は、2006 年には 8589 万 1000 ドルまで急減した。また、国内の視聴率について上半期を基準に見れば、2004 年、2005 年には平均視聴率が 20% を越えたドラマが 11 編あったのに対し、2006 年には 6 編、2007 年には 7 編に減少した。

韓国放送映像産業振興院のキム・ヨンドク研究員は、「制作費が上がって、日本では、韓国ドラマはアメリカドラマよりも高い価格で売られており、価格競争力が落ちた」と言い、「元祖韓流スターたちが出演したドラマも、最近の数年間に東アジア市場でほとんど消費された状態であるから、ドラマの輸出額は継続して減少する可能性が高い」と言っている。

以上が、記事のあらましである。制作費の高騰などで優れたドラマ制作が難しくなれば、日本では「冬のソナタ」で火が付き、「チャングムの誓い」などを経て維持してきた韓国ドラマの人気は、今後どうなるであろうか。「韓流」は「寒流」に転落するのであるか。

最後に、その記事の中の図表をもとに、A 社の制作費上昇に関するデータを以下にまとめてお

く（単位：万ウォン）。

	2002年	2007年
ドラマ平均制作費	8000～9000	1億4000～1億5000
地上波放送局販売価格	6500～7000	8000～9000
特 A 級俳優ギャラ	500～600	2000～3000
特 A 級作家ギャラ	400～500	2000～3000

（田川光照）

英語 e-learning をバージョンアップ！

アルク教育社英語学習システムで、このたび、新 TOEIC 対応にバージョンアップしました。自分のレベルに合ったところから学習を始め、レベルアップをめざしましょう。

スタンダードコース

対象者：TOEIC[®] テストスコア300～800点台の方

コンテンツ選択型学習：「レベル診断テスト」を受けたあと、興味のあるユニットから学習できます。

初中級コースプラス

対象者：TOEIC[®] テストスコア400点未満で500～600点突破を目指す方

コンテンツ必修型学習：1ユニット順に学習する。

(注) 1. 利用するには「アカウント」と「パスワード」が必要です。名古屋語学教育研究室へ申し込んで下さい。

2. 学外からは利用できません。

2007年度 外国語検定試験奨励金制度について

名古屋語学教育研究室では、下記の基準にもとづいて、合格者には、奨励金（図書券）を贈って表彰しています。

本年度合格した学生には、奨励金（図書券）をお渡ししますので、名古屋語学教育研究室または車道教学課まで申し出て下さい。

I. 奨励基準

<英語> 対象者：法学部生 経営学部生 現代中国学部生

●英語検定	準1級以上	●国連英語	B級以上
●TOEIC	530点以上	●通訳検定	3級以上
●TOEFL (Paper-Based)	460点以上	●商業英検	B級以上
(Computer-Based)	140点以上	●ガイド試験	合格

※ TOEIC IP・カレッジ TOEIC・TOEFL ITP は対象外です。

<フランス語> 対象者：法学部生 経営学部生 現代中国学部生

●フランス語検定	4級以上
----------	------

<ドイツ語> 対象者：法学部生 経営学部生 現代中国学部生

●ドイツ語検定	4級以上
---------	------

<中国語> 対象者：法学部生 経営学部生

●中国語検定	4級以上
●HSK	3級以上

<韓国・朝鮮語> 対象者：法学部生 経営学部生 現代中国学部生

●ハングル検定	4級以上
---------	------

<日本語（留学生）> 対象者：法学部生 経営学部生 現代中国学部生

●日本語能力検定	1級
●BJT ビジネス日本語能力検定	480点以上

* 奨励金（図書券）の金額については、申し出期間終了後決定いたします。

* 申込者多数の場合、奨励基準が変更になることもあります。

II. 申し出締切

2008年1月31日（木）

名古屋語学教育研究室
または車道教学課まで

III. 学生証および合格通知書（成績証明書）を持参すること。

◎奨励金の交付は2007年2月以降に取得した者に限る。

◎本年度入学生については入学後、受験したものに限る。

〈編集後記〉

近年の気候変動は著しい。毎年のように「今年の気象は異常なほど…」と聞くが、2007年の秋は格別であった。本当に秋はなかなかやって来なかった。9月に秋学期が始まり、陽はどんどん短くなるというのに、10月もしばらく半袖で過ごす日々だった。もうすぐ11月になってしまうのではないかと焦ってしまうほど秋らしくならない。

しかし、11月に入ると、さすがに秋はやってきた。暦に追い立てられることもなく、悠々とした足並みで。キャンパスから望む山肌が見事に色づいたと思えば、そろそろ師走である。秋は急速に深まり、あっという間に暦に追いつき追い越してしまった。インフルエンザによる学級閉鎖は、例年にない早さである。年が明ければ、まもなく試験期間である。学生諸君は体調管理に留意されたい。

さて、暮れゆく2007年は、みなさんにとってどんな1年だったのだろうか。卒論や就活に忙しい1年、部活に没頭した1年、新しい恋が始まった1年…。今年の「私的」三大ニュースを考えつつ一年を総括して、来年はどんな年になるのか思い巡らせるのも年末の楽しみである。「一年の計は元旦にあり」というが、ITによりスピード化、多様化した現代では、もうそろそろ来年の計画を立てておきたいものだ。

語学教育スタッフの一人として、来年は、愛大生の外国語に対する興味、関心、学習意欲がより一層高まることを期待したい。初夢としては、コンテストの出場者が溢れてくじ引きになったとか、奨励金が追いつかないほど大量の検定合格者が出て教員が嬉し泣きでカンパしたとか、そんなニュースが語研ニュースに載ったら面白いですね。ともあれ、より一層役立つ語研ニュースであるように努めたい。また、地震被害が出ないこと、本誌の海外事情で激しい気候変動による災害の話題が出ないことを祈って、2007年の幕を引きたい。